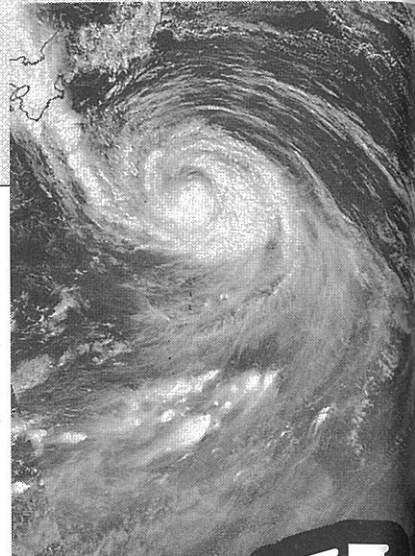
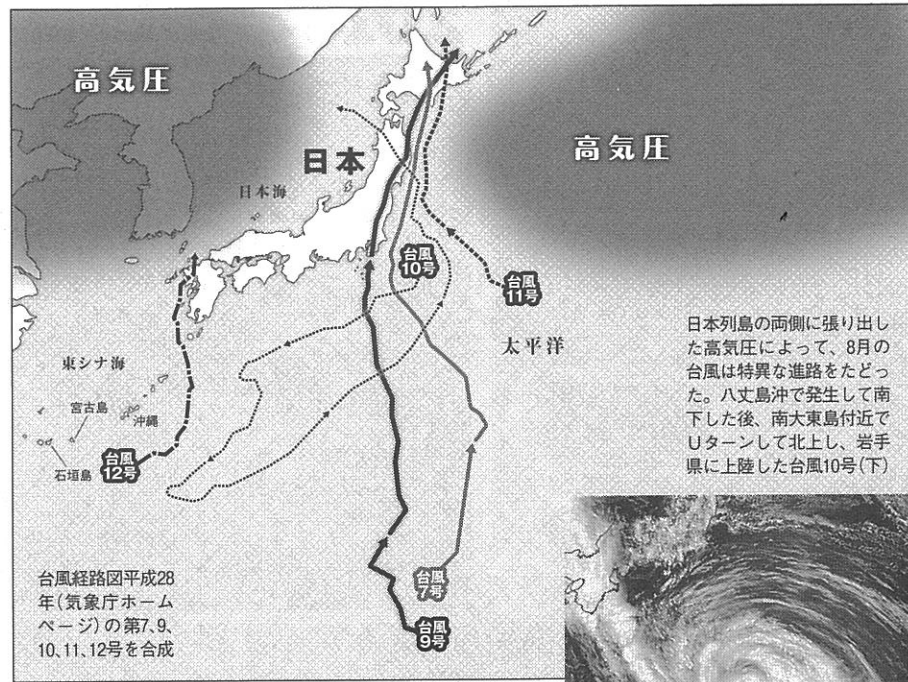


今年8月以降日本に上陸した台風(7・9・10・11・12号)の経路



「台風の発生数を見ると、エルニーニョ(*)からラニーニャに移行するときは少なく、逆にラニーニャからエルニーニョに移行するときは多いことがわかっています。そして、今年にはエルニーニョからラニーニャへの移行時期だったために、6月まで台風の発生が抑えられて、結果的に1号の発生が遅くなりました。」

また、全体的に海面水温が日本近海で高かっただけでなく、それまで台風の通過が少

ないと、強風で海水がかき混ぜられず海面温度が下げられる効果もなかったため、最初に通った台風は猛烈に発達して、勢力の強い台風になります。そのため、今年には台風1号から勢力の強い台風となり、台湾・中国に大きな被害をもたらしました。」

そして、この7月3日の1号以降、台風は日本周辺でほとんど生まれることになる。なかでも、8月14日に発生した台風7号は北海道に上陸、8月19日に発生した9号は千葉に、同じく19日の10号は前述のような複雑な動きをして東北に、8月20日の11号は北海道、9月1日の12号は九州にそれぞれ上陸した。8月に4個の台風が日本に上陸するのは、観測史上最多タイ

(*)エルニーニョは東太平洋の赤道付近から南米のペルー沿岸にかけて、海面水温が平年に比べ、1~3℃高くなる現象。ラニーニャはその逆で水温が低くなる

8月の上陸数最多タイ!
東北地方への直接上陸は初!!

スーパー台風が日本全土を迷走射程圏になる

台風がUターンして東北に上陸するなんて史上初のことだった! 8月に4個の台風が日本に上陸するのは史上最多タイのことだった! 異例のことばかりが起き、日本各地に甚大な被害をもたらしている。本格的な台風シーズンに入ったら、いったいどんなことが起きるのか? 専門家たちに聞いた!

迷走台風の射程圏になる

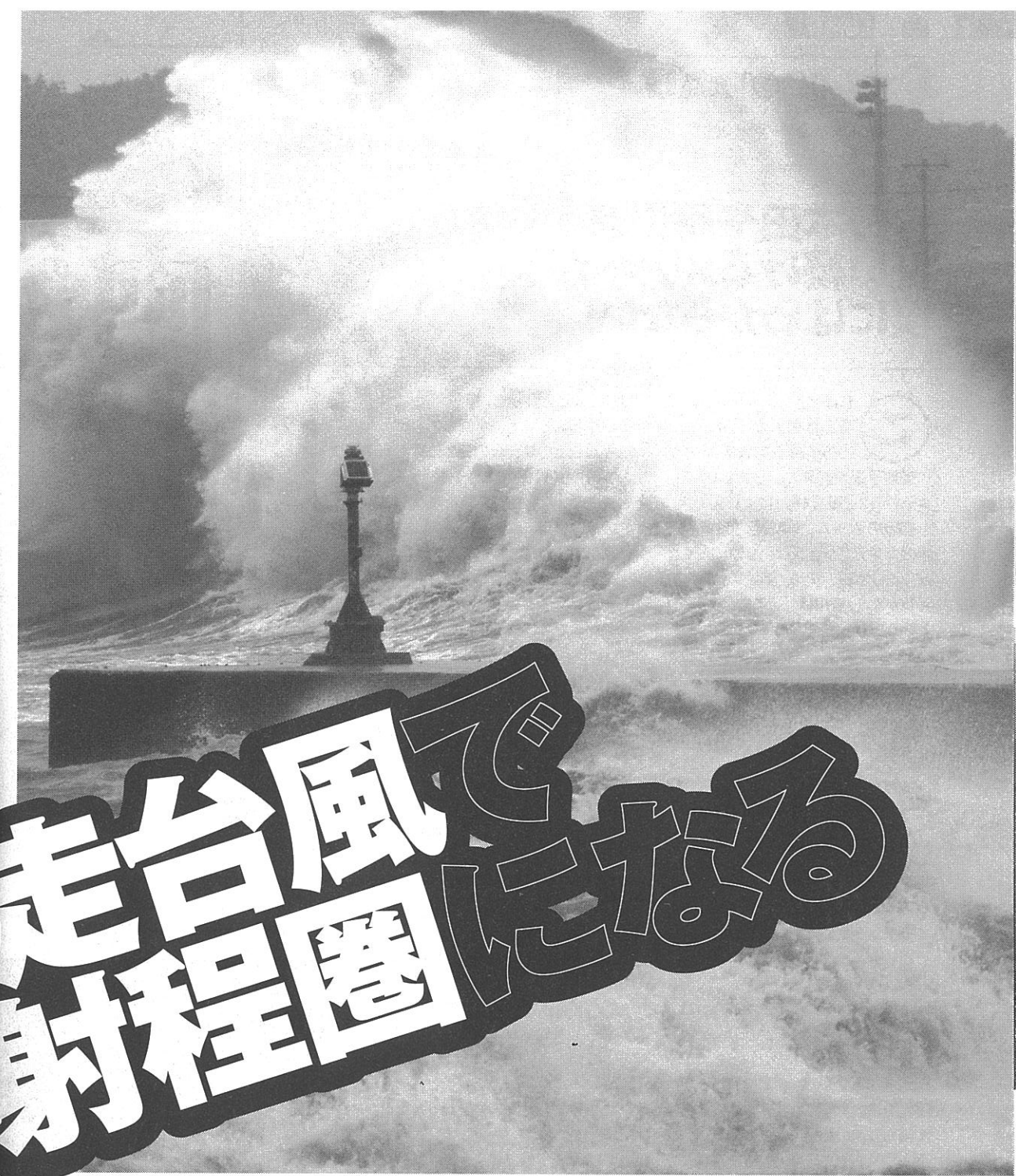
平年の2倍のペースで台風が上陸している!

8月19日に八丈島沖で発生した「台風10号」は、通常の北上ルートを取らず、なぜかいったん南下してから沖縄(南大東島)付近でUターン。勢力を強めながら北上し、岩手県を直撃した。

この「迷走台風」は、「関東に近い場所で発生」し、「日本付近で生まれた台風のうちでは最長寿(11日と3時間)」。そして、観測史上初となる「太平洋側からの東北上陸」という、異例づくめのものだった。そんな台風10号は東北や北海道で河川を氾濫させ、土砂崩れを起こし、死者18人(9月8日時点)を出す暴走台風となった。農作物にも大きな打撃を与えている。

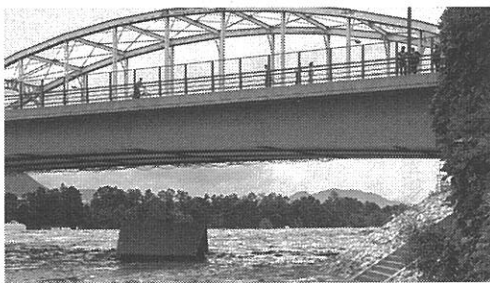
実は「異例」なのは10号だけではない。今年には台風1号の発生が7月3日と、観測史上2番目の遅さだった(一番遅かったのは1998年の7月9日)。

「台風の正体」(朝倉書店)などの著書がある横浜国立大学准教授で理学博士・気象予報士の筆保弘徳氏が語る。

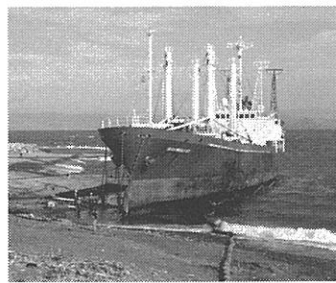


1998年

台風4号による豪雨では茨城・水戸市を流れる那珂川が氾濫。橋が流されるなどの大被害を受けた



台風5号による豪雨で利根川が増水し、小屋や車が流された群馬・前橋市



台風10号による風と波で、静岡・清水市の浜に打ち上げられたバナナ船籍の冷凍船

1998年に上陸・接近した台風[4・5・7・8・10号]による被害状況(『消防白書』より)

- 死者・行方不明者 ▶ 61名以上
- 負傷者 ▶ 782名以上
- 住家全壊 ▶ 251棟
- 住家半壊 ▶ 1361棟
- 床上浸水 ▶ 9844棟
- 床下浸水 ▶ 36101棟

台風1号の発生日が遅かった年

- 1位 ▶ 1998年 [発生日] 7月9日
- 2位 ▶ 2016年 [発生日] 7月3日
- 3位 ▶ 1973年 [発生日] 7月2日
- 4位 ▶ 1983年 [発生日] 6月25日
- 5位 ▶ 1984年 [発生日] 6月25日

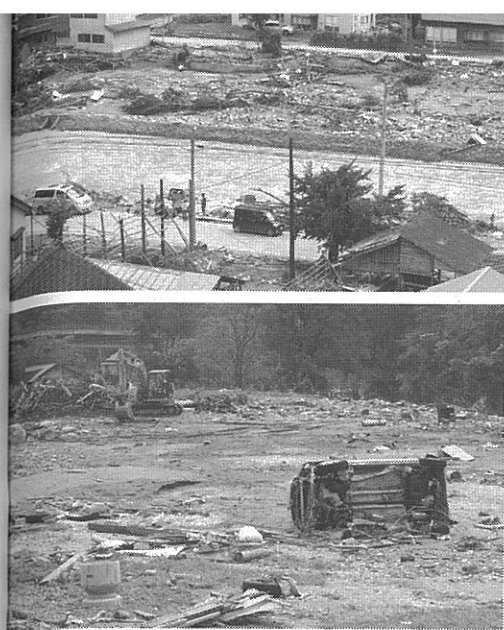
8月の台風の上陸数が多かった年

- 1位 ▶ 2016年 [上陸数] 4個
 - 1962年 [上陸数] <
 - 3位 ▶ 2004年 [上陸数] 3個
 - 1992年 [上陸数] <
 - 1960年 [上陸数] <
- (平年値は0.9個)

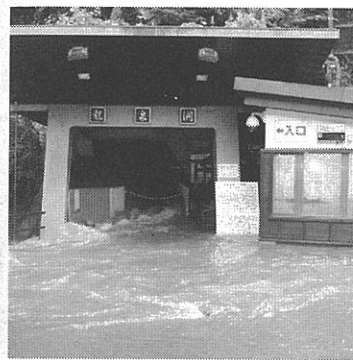
年間の台風の上陸数が多かった年

- 1位 ▶ 2004年 [上陸数] 10個
 - 2位 ▶ 1993年 [上陸数] 6個
 - 1990年 [上陸数] <
 - 4位 ▶ 2016年 [上陸数] 5個
 - 1989年 [上陸数] <
 - 1966年 [上陸数] <
 - 1965年 [上陸数] <
 - 1962年 [上陸数] <
 - 1954年 [上陸数] <
- (平年値は2.7個)

0.9個を上回る年



上は台風10号による被害を受けた岩手県岩泉町。行方不明者も出ている



台風10号の豪雨のため鍾乳洞が水没し、水があふれ出している岩泉町の龍泉洞



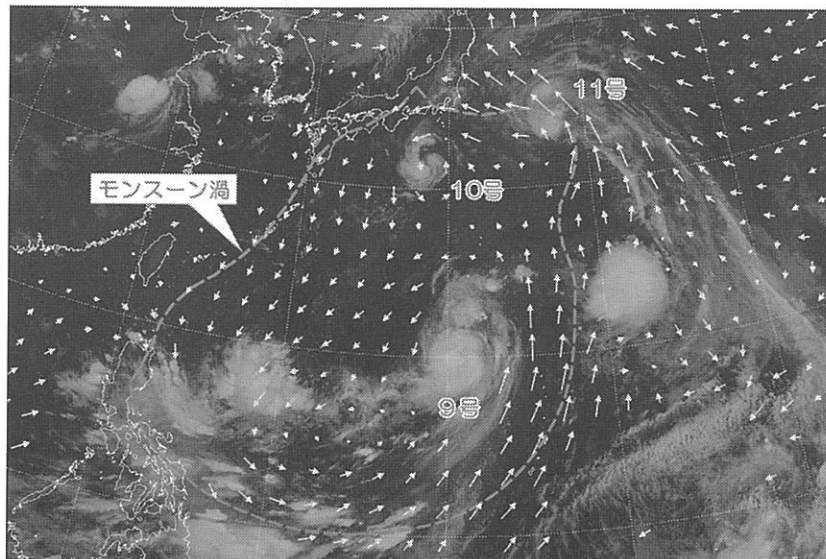
千葉県に上陸した台風9号。傘を壊すほどの強風が吹いた



台風9号の豪雨によって線路脇の斜面が崩れた西武多摩湖線

2016年

台風10号を迷走させた巨大なモンスーン渦。3年に1度の割合で出現するという。本来は赤道近くののだが今年は北寄りだった



だ(平年値は0.9個)。

8月に台風が次々と日本に上陸した理由について、前出の筆保氏が解説する。

「それは、チベット高気圧と太平洋高気圧が日本列島を挟むような位置にあり、日本近海で発生した台風の行く手を北東にも北西にも阻んでいたから。そのため台風は、高気圧の谷間となった関東から東北、北海道を通り抜けていき「南」に南下してウターンをするなど複雑な動きをした10号については、琉球大学助教で理学博士の伊藤耕介氏がこう語る。「これにはふたつの気象条件が影響しています。ひとつは10号の発生時期に重なって現れた巨大な「モンスーン渦」。

この反時計回りの気流は、通常は北半球の赤道近くの海域に現れますが、今年の夏は西日本沿岸からフィリピン、マリアナ諸島をカバーする地域に現れた。これが10号を西向きに動かすパワーになったのです。もうひとつは日本海側に南下してきた「寒気渦」。これも反時計回りの気流です。このふたつが、10号の動きに影響を与えました」

「8月は台風が発生が日本に近い場所でしたが、この後は赤道に近いエリアでも発生する可能性が高いでしょう。赤道に近いということは、温かい海なので、よりパワーのある台風が発生します。また、秋の台風は移動速度が速いのが特徴です。赤道近くで生まれた台風が温かい海でパワーを蓄え、日本に近づいてくるとスピードを増して上陸してくることが考えられます。」

今年はずでに5個の台風が上陸していて、平年の2.7個をすでに上回っている。このペースで上陸が続けば、過去最多である2004年の10個を超えることは間違いのない。

豪雨台風が日本全土を狙っている！

では、台風シーズンが本格化する今後はどうなるのか？ 筆保氏は「台風1号の発生が遅かった1998年と状況は似ている」と言う。

98年をふり返ってみると、8月に発生した台風4号は、日本上陸はしなかったものの、栃木県から福島県にかけて記録的な大雨を降らせ、死者・行方不明者22名を出す被害を出した。

9月には台風5号が静岡県に上陸し、北日本を横断。7号、8号は連続して近畿地方に上陸し、三重県で最大瞬間風速が秒速56・4メートルを記録。10号は九州南部に上陸し、西日本を縦断した。

この年の台風は関東、近畿、九州に次々と上陸し、東北にも記録的な大雨をもたらした。「日テレNEWS24」の気象キャスターで、気象予報士・



気象予報士・防災士の國本未華さん。「日テレNEWS24」の気象キャスターなどを務めている

いて、日本は、年間降水量は変わらないのに降水頻度は減って、一方で短時間での大雨は増えている観測結果があります。つまり、降るときは強い雨になる傾向があるということです。

長いスケールで見ると、台風の発生数も横ばいか、減少しますが、台風の強さは増してくるとい研究結果が出ています」

ひとつたび台風がやって来れば、猛烈な雨を降らせるということだ。

「今年台風が発生が遅かった分、その反動で9月、10月に頻発する可能性もあります」(前出・國本氏)

気圧配置や気流が不安定になり、日本全土が射程圏になっている今年の台風。

「本格的な台風がやって来るのはこれから。本番はこれからなんです」(國本氏)